

留学生WEEK 開催!

日本語教育センター通信

第26号

6月22日〜28日までの1週間、第10回留学生WEEKを開催しました。留学生(学部留学生・交換学生)のことを関心の日本人学生に知ってもらうこと、留学生と日本人学生とが交流できる場を提供することが目的です。

交換学生が日本ですごいと思っ
たものを日本語で紹介する「COOL JAPAN トークショー」、学部留学生と交換学生が日本について
の想いを日本語で話す「スピーチ発表会」、その他留学生と一緒に楽しめる文化
体験(縁日、映画鑑賞会)などを行いました。

また、今回は初の試みとして、日本語の授業内容の紹介や、留学生が日本語で書いた成果物等を図書館ホールで展示しました。そして展示を見た人に、コメントや留学生の疑問に対する答えを付箋に書いて貼ってもらいました。展示期間終了後に、付箋をもらった留学生は大喜びでした。

留学生はもっと日本人学生のみなさんと交流したいと思っています。日本語教育センターや国際教育・協力センターでは、様々な交流イベントを実施していますので、ぜひ積極的に参加してください!



Cool Japan トークショー in Japanese

Cool Japan トークショー in Japanese

日時: 6月22日(水) 3時限 13:30~15:00

場所: G号館 フジタ・グローバルラウンジ

司会: リチャーズ ドミニク セバスチャン (ロンドン大学東洋アフリカ学院)

カピト ケヴィン (デュッセルドルフ大学)

コメンテーター: 増原 早紀 (法学部)

半井 翔汰 (経済学部)

小牧 陽輔 (商学部)

山本 紗耶香 (国際学部)

私は今回、コメンテーターとしてCOOL JAPAN トークショーに参加しました。知人の紹介でコメンテーターというお役目をいただき、不安と期待に満ちた気持ちで本番を迎えました。本番は終始アットホームな雰囲気にも包まれました。プレゼンテーションはどれも私たち日本人の視点では気づかないものが多く、大変興味深かったです。また、同時に彼ら/彼女らの母国の文化を知ることでもでき、新たな発見がたくさんありました。プレゼンテーション後には交流の時間が設けられており、有意義な時間を過ごすことができました。留学生の皆さんのプレゼンテーションを見て、彼ら/彼女らが一生懸命に準備をしてくれたことが伝わってきたとともに、自分も学業にもっと励まなければならぬとモチベーションも高まりました。今回留学生の皆さんの手助けになればと思っただけで、参加を決意しました。私の方が留学生の皆さんから多くの刺激をいただきました。機会があれば、また参加したいと思います。

経済学部2年 半井 翔汰さん

コメンテーターとして参加して



〈司会をするロンドン大学東洋アフリカ学院からの交換学生、リチャーズドミニク、セバスチャンさん(右)とデュッセルドルフ大学からの交換学生カピト、ケヴィンさん(左)〉

文学部3年 増田 茜さん

ラーニングアシスタントとして参加して

私は今回、LAとしてCOOL JAPAN トークショーに参加させていただきました。留学生が、日本でCOOLだと思っていることを自分なりに予想しながら、楽しみにしていました。実際に参加してみようと思ったことは、「留学生の日本語がすごく上手!」「え!? それってCOOLなの?」でした。留学生によるプレゼンはすべて日本語で行われたことに驚きました。質疑応答も完璧にこなしていたのがすごく印象的でした。また、日本のトイレやお風呂、家の玄関など、日本人にとっては当たり前のことも、いいと思えないようなものも、留学生は異なる見方をしていることがわかりました。プレゼン中には、発表者が日本で撮った写真が使われていたりして、留学生が日本での生活を楽しくしている様子が伝わってきました。私は初めてこのトークショーに参加しましたが、これは昨年も行われていたイベントです。もっと多くの日本人学生が、次回参加することを期待しています。

日本語スピーチ発表会

日時:6月24日(金)1時限:9:00~10:30 / 2時限:11:10~12:40

場所:社会学部チャペル

司会:【1時限目】ムハンマド ザキ ルクマン (商学部)

【2時限目】ハワード クリストファー ジョングフン (メリーランド大学カレッジパーク校)

スピーチ発表会

1限(9:00~10:30)

	発表者	テーマ
1	ズヒリア アウチ (バジャジャラン大学)	日本の生活
	オチ エリザベス エミコ (カリフォルニア・ポリテクニク州立大学)	
2	ソン ジャクカ (文学部)	日本人と曖昧さ
3	ベイカーサリヴァン アナベル ジェイン (マウント・アリソン大学)	留学生の経験
4	ソ ウンベ (経済学部)	日本の部活動について -良い点・悪い点-
5	ラーセン ウィリアム (オスロ大学)	外国人として困ったこと
	チン ユエン (国立台湾大学)	
6	カウス ルース (サティア・ワチャナ・キリスト教大学)	日本での初めての経験
	タリ ディー (バジャジャラン大学)	
7	リ ユウ (社会学部)	野良犬
8	デューラー ロバート シェイ (ネバダ大学ラスベガス校)	日本人の本音/ 日本人の建前
	ペネド セバスチアン マウリーシーオー (シドニー大学)	
9	キム ヒスン (人間福祉学部)	在日韓国人について
10	サンドヴィック ペッテル (オスロ大学)	デートしようか?— 日本人の曖昧な態度—
	デュラント ジョシュア ロバート (南キャロライナ大学)	
11	アルフォンソ エーベル アレクサンダー (メリーランド大学カレッジパーク校)	関西人になる方法
12	ゴ ミンジョン (国際学部)	日本に来て学んだこと

2限(11:10~12:40)

	発表者	テーマ
1	イ ジュンヒ (国際学部)	なぜ俺は日本におけるのか
2	ファリナス シューナ ミキハラ (ロヨラ大学シカゴ校)	コンビニエンスストア
	コーモー アリクス グレイス (ガウチャー大学)	
3	モロコシ タケシ (社会学部)	朝食の大切さ
4	パホモヴス ドミトリス (ラトビア大学)	日本の強いおじいさんとおばあさん
5	ハイアム クレーグ オーエン (ヤングスタウン州立大学)	科学の年:明日へのステップ
6	シム ウクジン (文学部)	地震
7	リチャーズ ドミニク セバスチアン ベンジャミン (ロンドン大学東洋アフリカ学院)	わたしの日本での生活
8	リ イチゲン (社会学部)	日本の食文化
9	タン エイ (ノルマンディー・ビジネススクール)	日本の体験
	ファン ハイ タン ヴァン (ヴィアドリナ欧州大学)	
10	イ ジョンジェ (国際学部)	日本と私
11	ペノア モルガン ノラ (リヨン第2大学)	パンの伝説
12	キム ソンギョ (文学部)	夜の難波
13	カピト ケヴィン (デュッセルドルフ大学)	私たちの目の前にある美しい世界
14	アンダーソン アレックス ダビデ (アラバマ大学)	世界と話そう!
	フオンセッカー サンドバル エドガー アルマードー (西テキサスA&M大学)	



日本語スピーチ発表会に出場したことは、今まで自分が日本でしてきた経験を思いだして、これからの覚悟を固めるきっかけになりました。日本語で大勢の人の前で発表することは人生で初めての経験だったので、とても不安を言ったので、とてもわからず、最初は悩みました。でも、先生と友達の手伝ってくれて、自分なりにじっくり考え、いい発表になったと思います。私は日本では、韓国に住んでいたときとは違ういろいろな経験を留学生の前で、また、日本人学生の前で話せたことがうれしかったです。これからは、日本で非常に恵まれた貴重な経験をしたいです。また機会があれば、このように自分の話をたくさん人の前で伝えたいです。

発表者の声

国際学部2年
ゴ ミンジョンさん



ラーニングアシスタント募集!

日本語教育センターでは、学部留学生や交換学生の日本語クラスでLAを募集しています。アカデミック日本語のように学期を通じてのLAもありますが、1回だけ~数回だけのLAもあります。自分のスケジュールに合わせて、応募してみてください。

募集情報は教学WEBや日本語教育センターのHPのほか、CIECのメールマガジンでも知ることができます。留学関連の情報も合わせて知ることが出来ますから、ぜひ、CIECのメルマガ“Go Global!”に登録してください。

発行人: 関西学院大学 日本語教育センター
発行日: 2016年9月30日

アカデミック日本語の授業では、留学生と関わり合いながら、それぞれの国の文化についても触れることができている。グループでの話し合いの際には、留学生は日本についてのトピックを自分の国での経験を交えながら生き生きと話してくれました。留学生が積極的に楽しそうに話し合っている様子を見て、私も積極的に参加してよかったことが、私にL.A.をしてよかった、と思える瞬間でした。また、様々な国の留学生と話し合いを重ねていくなかで、お互いの国についての理解を深め合うことができた。同時に、私自身も日本についても一度考えるきっかけとなりました。授業を通して留学生と日本のことについて共に考え、学び合えたことが、そしてお互い高め合えたことが、私にとって大きな経験になりました。



こんなふうにグループでディスカッションしました



2016年秋季学期も引き続きLAをしてもらえることになった木下さん

日本語学習コース (アカデミック日本語)

ラーニング・アシスタント(LA)
木下 陽子さん (教育学部)